

○事業所名	放課後等デイサービス 希望の花西大和		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 25日		～ 2026年 3月 11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	49名	(回答者数) 26名
○従業者評価実施期間	2026年 3月 9日		～ 2026年 3月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画や相談支援計画を職員間で共有し、個々に合わせた療育を最優先に行えるよう取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> 支援計画は職員へ回覧をし、利用児の日記を記録する際に確認ができるようまとめています。 記録した日記は今後の支援計画へ役立てています。 状況に応じて個別支援を行うことで、さらに細かいところへアプローチを行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> 全てのご利用者さまを対象に専門的支援療育を開始しました。個々の発達段階や個性に併せて、より一層豊かな療育支援を行ってまいります。 保育所等訪問支援を再開いたしました。事業所以外の学校などの集団生活において、安心して過ごせるよう成長をサポートしてまいります。 終礼を実施し、新たに子供の支援や施設に関する情報共有の場を意識的に増やしました。 活動の際に子供がクールダウンできる場所として、利用スペースの中ヘジョイントマットの設置を取り入れるなど、適宜必要な場合は柔軟に取り組むことができています。
2	定期的に保護者の方と職員が日々の様子を共有し合える場を設置し、子供と保護者どちらにも最善で寄り添える環境作りを心がけている。	<ul style="list-style-type: none"> 送り出しの際に保護者の方とお話する時間を設けることで、事業所での様子の共有や保護者の方からも様子をお伺いし、必要に応じてアドバイスや声掛けを行っています。 お帳面（連絡帳）を通して保護者の方と職員で情報共有を行っています。 普段の療育の様子などをお伝えする場として、毎月Instagramとおたよりを配信しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度から新たに公式LINEを開設いたしました。日々の連絡手段として多くのご利用者様にご活用いただいております。また、リッチメニューも併せて設置し、おたよりやアンケートのご利用に加え、連絡事項などの定期配信を行っております。
3	活動の内容に様々な行事を取り入れています。クリスマス会や水遊びなどの季節を感じられるものから、運動会や発表会など普段の活動を活かせるものを企画しています。	<ul style="list-style-type: none"> 新たな行事企画として、大型バスを用いた遠足を実施しました。内容も初めての試みとして皆様に楽しんでいただけるような1日になればと職員で企画運営をいたしました。 西大和保育園と連携をしているので、大きなスペースを活用した行事を企画しています。 姉妹校の大和大学白鳳短期大学部と連携をし、実習や訪問などで学生さん達と接する機会を設けています。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事後に保護者の方へアンケートを実施しています。そちらでいただいた意見を基に、今後の行事企画の参考にできるように取り組んでまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	策定した計画の発信と周知の不足。 また、それを基にした訓練や研修の実施。	<p>人員配置の変更により、新たに策定した計画の周知が一部の職員のみで留まっていた。職員全体で共通の認識が持てるように発信と周知を行う機会が必要だと考えています。</p> <p>外部の療育サイトを活用したWEB上での研修機会を立案しているので、それらを活用して職員の知見を深めていくことも大切だと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 策定した計画を職員へ周知する機会を作る。 計画は職員が必要なおきに閲覧できるよう設置する。 不定期に行っている避難訓練などに、計画を基にした内容を取り入れる。 計画以外の療育に関する研修企画がある場合、職員が受講できる環境を整備する。
2	地域交流や保護者交流などの機会の企画・提供不足。	<p>地域の図書館や公園、イベントなどを利用する機会を設けていますが、利用児の支援内容や気候に合わせた活動を行っている為、高頻度での企画が難しいのが要因だと考えています。保護者交流は親子遠足の際に機会を提供していますが、支援を優先している為同様に高頻度での企画が難しいのが現状です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 個々に合わせた支援を続けるのを前提に、地域で開催されているイベントや周辺施設のリサーチをし、活動へ取り込めるよう立案する。 他の行事で保護者の方が参加される際に交流会の企画を検討する。